

感染症の予防のための情報提供について

病 名	腸管出血性大腸菌感染症 (O157)				
年齢及び性別	31才・女性	職 業	会社員		
住 所	津市				
発病年月日	令和 元年 7月28日				
診断年月日	令和 元年 8月 6日				
(患者発生の経過)					
7月28日 腹部に違和感、食欲不振がみられた。					
7月30日 腹痛、下痢、食欲不振がみられたため、鈴鹿市内の診療所を受診した。					
7月31日 腹痛継続し、血便がみられたため、津市内の診療所を受診した。					
8月 3日 徐々に症状の軽快がみられた。					
8月 6日 7月31日の便検査から、腸管出血性大腸菌感染症と診断された。					
8月 7日 患者に症状はありません。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施 (津保健所)					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】 (四日市市保健所分を含む)					
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
患者	27	29	29	32	10
保菌者	10	15	13	19	9
計(感染者)	37	44	42	51	19
※2019年1月1日～2019年8月7日現在まで本件含む					
2019年内訳 患者：O157 (7人) O26 (2人) O111 (1人)					
保菌者：O157 (1人) O26 (5人) O103 (1人) O115 (1人)					
型不明 (1人)					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱 (菌を殺す)					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却 (菌を増やさない)					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫 (10℃以下) や冷凍庫 (-15℃以下) に入れましょう。					
③ 清潔 (菌をつけない)					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					